

アオヤギ有希子

議会報告

〒193-0944 八王子市館町 1097-1-2-901
TEL 642-6344・FAX 646-8055

アオヤギ有希子の活動日誌 検索



9月2日～10月15日まで第三回定例会が開かれました。平成24年度の決算審議の中で、国保税について明らかにしました。

平成24年度の決算の代表質疑の中で、党市議団は、値上げされた国保税や介護保険料、後期高齢者医療保険料などの値上げの総額が27億8千万円にも上ったことを明らかにしました。

国民健康保険特別会計を詳細にみると、国保税収が9億1千万円の増額となり、一般会計からの繰入金も、前年と比べ17億8千9百万円の減少となっており、繰入金を減らさず一定程度維持していれば、国保税の値上げは必要なかったということになります。

市民のくらしが厳しいときにこうした値上げはするべきではありません。党市議団は、決算に反対しました。

現在、保険料などを議論する国民健康保険運営協議会では、自動的に保険料を値上げする仕組みが検討される可能性が出てきています。こうした動きに注視して、市民のくらしを無視した保険料の値上げをくいとめていきたいと思えます。

横田基地へのオスプレイ配備反対の意見書が可決



オスプレイを使ったヘリボン(敵地への派兵)訓練を行う自衛隊員(前方2人)と米海兵隊員(後方2人)=10月16日、滋賀県高島市

9月18日の本会議で日本共産党八王子市議団が提出した「垂直離着陸輸送機CV22オスプレイの横田基地配備に反対する意見書」を自民党新国会などが反対したものの、日本共産党、公明党、社民党、生活者ネットなどの賛成多数で可決しました。民主党は退席しました。

意見書の要旨——八王子市においては、多くの市民が横田基地から飛来する航空機騒音等に長年悩まされ続けており、今回の横田基地へのオスプレイ配備検討の報道は、八王子市民の生命と財産を守る立場から看過できない。よって八王子市議会は政府に対し、垂直離着陸輸送機CV22の横田基地への配備に反対し、日本政府が米国政府に対し、配備検討の撤回を求めるよう強く要請する。

国保税の値上げは必要なかった！

地域の要望が実現！ 歩道が設置されました。

この春に、都道野猿街道の歩道の設置を求める要望がアンケートに寄せられ、現地調査を行い、清水ひで子都議と共に東京都南多摩西武建設事務所へ要望をしました。

場所は八王子南口から北野町へ向う野猿街道の最初の大きなカーブで、道路に隣接した都有地に歩道が付きました。以前は、白線から道路にはみ出すようにしか歩けませんでしたが。要望が実現してうれしいです。

改善前



白線からベビーカーがはみ出している

改善後



無料法律相談 を行っています

(八王子合同法律事務所の弁護士が対応します)

予約制です。電話642-6344(党事務所)まで

毎週木曜または水曜日(変動制)

お気軽にお電話ください。



中核市移行へ一市民サービスが向上するかはこれから制定する条例がカギ

9月18日の本会議で市長提出の「中核市への申し出」が前回一致可決されました。中核市は人口30万人以上を対象とした大都市制度で、都道府県から多くの権限が委譲されます。八王子市の場合、東京都から約9百項目の権限が委譲されます。大きな問題の1つは、権限が委譲されても財源がどうなるか。波多野市政時代に中核市への移行に取り組みましたが、約60億円もの財源負担が生じることになり、断念しました。しかし、この間、保健所などの移行が行われ、財源もその影響が37億円となり、地方交付税の基準財政需要額に37億円も算定されることとなりました。

市は中核市になれば、市政が変わると宣伝を強めておりますが、問題なのは、委譲された事務を34以上の新たな条例で規定する際に、市民サービスの向上につながる内容を盛り込めるかどうかにかかっています。条例は平成27年4月の移行までに制定されますので、市民サービスが向上するのかがこれからにかかっています。

八王子市議会の改革 議会基本条例の制定



市民と議会の意見交換会

9月18日の本会議で八王子市議会基本条例が全会一致可決されました。

今日、地方議会のあり方が鋭く問われております。夕張市が破たんした時も「議会は一体何をしていたのだ」と大きな批判が生まれました。こうした中、全国で二元代表制にもとづく地方議会の役割を改めて見直し、議会基本条例を制定し、改革に取り組む自治体が増えております。

八王子市議会でも4年前に「議会基本条例検討委員会」を発足させ、2年前からは特別委員会を設置し、条例制定をめざしてきました。

条例素案に対する市民の意見も22人から70件寄せていただき、4月23日には市民との意見交換会を開催しました。

平成25年4月から条例がスタートします。議会改革が進展するよう日本共産党市議団も全力をつくす決意です。

太陽光パネルの設置費用の助成の増額を

先日、一般質問に立ち、再生可能エネルギーの普及促進について質問しました。特に、市内の住宅用太陽光パネルの設置費用助成の増額を求めました。昨年は2千万円の予算で23倍の経済効果でした。今年は1千万の予算で申し込みわずか1か月足らずで終了。あまりにも予算が少なすぎます。思い切った増額を求めました。

今年3月に発表された「八王子市再生可能エネルギー導入検討報告書」においても、市全体の電力需要に対する太陽光の利用可能量は、「独立住宅の屋根」と「集合住宅の屋上」をあわせて49.5%を占め、住宅用の太陽光パネルの普及が、市内の電力の約半分を賄える可能性を持っていることをしています。

再生可能エネルギー導入検討会で出された意見の尊重と、今後も市民の力に依拠して、検討と普及を行うことについても求めました。補助金の増額は、今回は勝ち取れませんが、引き続き求めたいと思います。

市内のひきこもりの実態調査を



決算の総括質疑の中で、私は、これまで若者サポートステーション（サポステ）求めてきた、市内のひきこもりの方々の実態調査を行うよう質問しました。

この間、お隣の町田市では、保健所が市民対象にアンケートを実施。「自身ひきこもっている・または家族にひきこもりがいる」との問いに、20世帯に1件がひきこもりの人がいることがわかりました。さらには、ひきこもりが40代17.8%、50代13.3%いるということもわかり、初めて40代、50代にも調査が及んだことに注目されています。

八王子市でも、サポステが今年から開設されました。さらに、実態をつかんで、その方に合ったきめ細やかな、対応するよう求めました。また、この間求めてきた、ひきこもり対策への庁内連携が、サポステの所管の子ども家庭部や保健所、産業振興部なども連携が図られていることが、わかりました。調査については、「必要に応じて適切に対応してまいります」との答弁でした。

ぜひ、ひきこもりで悩んでいる方、ご家族の方は、
はちおうじ地域若者サポートステーションへ 電話042(649)3534

安心して介護を受けられる環境を

私は、一般質問で取り上げたのは、介護施設やサービスの充実についてです。

特別養護老人ホームはいまだに待機者は解消されておらず、需要の高い泊りやデイサービスを受けられる地域密着型の小規模多機能型施設（25人以下）などの整備も、一昨年までは、市の掲げた目標3施設に対して1事業者も手が上がらなかった現状があります。

そのため苦肉の策として、昨年度は、事業者が手を上げやすいグループホームとセットで小規模多機能施設の募集をかけ、事業者が決まり始めました。

事業者にとって小規模多機能は、利用者を常に確保しなければならないことや、一定の人員配置をするには、介護報酬だけでは、経営が厳しくなるということが考えられます。

事業者が施設を開設するための土地には、国や都の補助金を使うことができないことから、私は、介護施設への公有地活用や土地購入費補助制度の創設を求めました。

市からは「様々な観点から課題の整理を行っていきたい」との答弁でした。

引き続き、介護保険の問題点や利用しやすい施設の増設を求めていきたいと思っています。

